

第 4 回 ISO/TC306 本会議報告と国際会議開催状況

11/26~27 に WEB で開催された第 4 回 ISO/TC306 の本会議に出席した。

ISO/TC306 は鑄造機械の ISO 規格を作成する国際委員会で幹事国の中国とデンマーク、ドイツ、イタリア、日本、スイス、イギリスの 7 か国が正会員国(P メンバー)として参加し、スペインと新興国の 19 か国が賛助会員国(O メンバー)となっている。現在、規格案を作成する 4 つの WG で構成されている。

WG1 は中国が委員長を出し鑄造機械の世界共通用語を基礎用語、造形機械関係用語、ダイカスト機械関係用語、ブラスト機器関係用語そしてキューボラ他溶解炉関係用語の 5 つの Part で整理していく活動をしており、

WG2 は造形機械関係の、WG3 はダイカスト機械関係の WG4 がブラスト機器関係の世界標準の安全要件の規格案を作成してきている。

本会議の参加者は議長と事務局長と WG1 の委員長他で中国から 12 名、WG2,WG3,WG4 の委員長他でドイツから 8 名、スイスから 2 名、イタリアから 1 名、そして日本は JFS と JDMMA の専門家中心の 8 名と総勢 31 名での開催となった。

会議で確認された内容は、

1. 各 WG での規格化案件の進行状況

WG1 用語の基礎用語と造形機械関係用語は既に ISO 規格化案になっているが、ダイカスト機械関係の最終委員会案を 3 月に、ブラスト機器関係とキューボラ他溶解炉関係の委員会審議用案が 4 月に WG 事務局から TC306 事務局に提出される。

WG2 造形機械関係と WG3 ダイカスト機械関係の安全要件の最終委員会案は年内に提出される。

WG4 ブラスト機器関係の安全要件の委員会審議用案は遅れており 5 月 20 日までの提出が必要となる。

2. WG2 と WG3 の委員長(コンピーナ)2 名は再任された。

3. 第 5 回本会議 2021 年の開催場所

第 4 回はスイス開催予定であったが、やむなく WEB 会議に変わった経緯から 2021 年の第 5 回は可能な限りスイスでの対面会議となった。

COVID-19 は国際標準規格作成活動にも大きな影響を与えているが、ZOOM が Virtual 会議媒体として公式採用された TC 活動は上記本会議以外 4~12 月で 2 Gr で延べ 4 日も開催され、年明けの 1 月だけでも 3 Gr で延べ 5 日の会議が予定されているように活動そのものは着実な進捗状況にある。

コロナが刺激となり Virtual 会議のコストパフォーマンスと利便性が再認識され、After コロナ時も対面会議を補充する重要な会議の手段になっていくことが想定される。

日本と違って、大陸に位置する共同体の EU と広大な国土・多民族の中国は With コロナ時の活動が着実に進行している。

改めてデジタル面での挽回の重要性もせつに感じさせられた WEB 会議であった。

機材部会